

平成30年度地域づくり活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
1	下野市自然に親しむ会	栃木県下野市	谷本 丈夫	宇都宮大学農学部名誉教授	下野市の雑木林の生い立ちとこれから	平成30年4月15日(日)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
<p>下野市は、標高40-80mに位置し、東は鬼怒川、西は姿川に挟まれた低地と段丘上の平地から構成されている。雑木林は、低地には昔から少ないが、段丘上には江戸時代には既に現在残っているものがあつたことが分かる。その構成樹種で最も古いのは松であるが、明治以降はクスギなどの広葉樹に置き換えられている。これらの変遷は、農民達の生活の場として、薪や腐葉土の採取場所として活用されたことが原因である。</p> <p>昨年まで本会が元気な森づくり県民税を活用して整備を行っていた(今年度からは、下野市からの補助金を活用)雑木林は、江戸時代の地図でも、既に地蔵山と名付けられていたことが分かる。このことは、この雑木林が薬師寺に関連した(現在は龍興寺だが)宗教施設として知られていたことを示している。しかし、その主要な構成樹種が広葉樹であることは、人手が入らなくても自然と樹種が変わっていくことを示しており、非常に興味深い。</p>			<p>本会が一昨年より取り組んでいる明るく安全な里山林整備事業の目的は、自然保護と児童達への自然教育の場として活用することである。自然保護の見地からは、先生の講演の中で触れられている広葉樹の安全な更新、すなわち朽ちた樹木ばかりではなく密集しすぎて枝葉が狭くなっているものを伐採することが必要であると分かった。また、アオキやウグイススズメのような実のなる低木は、雑木林の低相を構成しているが、野鳥などの餌として重要であり、つい日常的に草刈りの対象としていることが自然保護の見地からまずいことが分かった。</p> <p>一方、児童達への自然教育の場としては、甲虫の住処として雑木などの朽木が重要であるとのことであった。</p> <p>今後先生からご教授いただいた雑木林の適切な管理法を忠実に実践したいと考える。</p>			
2	NPO法人 婦園田居創生機構	宮城県栗原市	①兼歳 正英 ②山形 孝夫 ③東 雅夫	①映像作家 ②元大学学長 ③雑誌編集長	「田園学舎」里山人間学 地域における「藝術、労働、教育」の意義を考え、 地域人を養成するための「学びの場」を提供。	①平成30年5月19日(土) ②平成30年6月3日(日) ③平成30年7月7日(土)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
<p>①「良寛」地方で生きることの意味を良寛の生き様や様々なエピソードを通じて論じ、また撮影現場における講師や演者の実体験を紹介しながら、自己を受容する在り方を説いた。</p> <p>②「どこにもいない人」に会いに行く(生)と死をテーマに、講師自身が幼少期から抱えている記憶を、はじめて様々な事例を挙げ、亡くなった方の面影を追いながら生きていく我々がその記憶とどう向き合い、昇華させていくかというヒントを提示した。</p> <p>③「里山と妖怪」人々の生活(里)と自然(山)との端境(里山)に息づく、目に見えない存在(妖怪)に焦点を当て、それらの物語に内在する、昔の人々の営みの中で培われた民俗知に触れ、現代に生きる我々が地球の文化性などに向き合っていくかを論じた。</p>			<p>現場で実践的に活動されている方々を講師に選定し、また自身の体験と感覚を軸に展開したことで、既存の講演にありがちな予定調和による安堵感の満足で終える一方通行の講演とは異なり、受講者を単なる傍聴者にさせることなく、それを感じ、考えさせる機会を創出した意義は大きい。市外からの受講者が多く、熱心に聞き入りメモを取る方もおられ、講演後の交流会でも質疑応答が続き、関心の高さが窺えた。地方であっても潜在的に知的渇望を抱いた層が一定数存在することが確認でき、今後さらにその掘り起こしと裾野を広げていく上で、次年度以降の継続と拡充を進める足掛かりとなった。</p>			
3	特定非営利活動法人 世界SHENこども学校 のびすく	三重県津市	①西原 茂樹 ②加藤 彰 ③原口 佐知子	①静岡県牧之原市市長 ②静岡県牧之原市政策部長 ③静岡県牧之原市 市民ファシリテータ	子どもが住みやすいまちってどんなまち?	平成30年5月5日(土)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
<p>静岡県牧之原市元市長西原氏からは、牧之原市が現在も実践されている協働のまちづくりについて講話いただきました。行政主導型から市民主導型への変換方法として、男女協働サロンの対話のやり取りも何回も繰り返され、そのファシリテータ役を市民が担うようになっていったこと、それに伴い、行政任せの思考から、自分達が立ち上がらねばならない、今では次世代育成プロジェクトとして、高校生が授業で地域の企業などの大人の方々のファシリテータ役をし、対話を進めています。現在では、高校生が自ら出身中学に行き、中学生を誘い対話に参加しながらファシリテータを育成している。子どもが住みやすいまちとは?子どもが活躍できる場所、居場所、役に立ったという体験が必要である。是非、津市も子どもたち主体の地域活性化に取組み子どもが住みやすいまちにしたい。対話が何より大切なので、今日のような機会をどんどん行って欲しい。加藤さまからは、実際に市民の声、職員の声が聴きながら現場を動かしてきた経験の中からアドバイスをいただきました。原口さまからは、市民として初めて認定された市民ファシリテータとしてのやりがいや問題点、改善点などを講話いただきました。市民が立ち上がれば住みやすいまちに変えられます。子どもたちが住みやすいまちにすることは可能だと教えていただきました。</p>			<p>参加された方々の中で、専門職の方が多く、一般の方々にとって貴重な時間になった。児童養護施設の所長からは、子ども達が住みやすいまちにしてあげたい。しかし、私たちが預かる子ども達は、世間との壁を作らなさいいけない子ども達もいる。そんな子ども達を、地域で支えられるようにしていきたいと語られました。其々が、其々の立場を振り回されることはないかと考える時間となりました。本企画で行ったかった。子ども、そして子どもを育てる親をどのようにサポートしていけばよいかを、参加者で話し合い検討できた。</p>			
4	特定非営利活動法人 岡山園芸福祉普及協会	岡山県岡山市	①末光 茂 ②藤井 順子 ③橋本 紀子 ④柴田 幹人	①社会福祉法人旭川荘理事長 ②管理栄養士 ③介護福祉士 ④園芸福祉士	第17回園芸福祉シンポジウムinおかやま	平成30年6月9日(土)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
<p>園芸を通じて人と人がつながり、地域社会が活性化する方向について、4人の講師による基調講演及び事例発表を行った。</p> <p>・基調講演では、子ども達や障害のある人達、認知症高齢者に対して園芸の喜びや楽しさを「おすそわけ」して人と人がつながることが必要だと提言された。</p> <p>・障害児施設では、園芸福祉活動により園児達が、苦手だった野菜を食べるようになる他、他のことに意欲的に取り組む姿勢がみられる発表があった。</p> <p>・グループホームでは、園芸福祉活動により、高齢者が外気に触れ、職員以外の人とふれあう機会を作ること暮らしに楽しみが出たとの発表があった。</p> <p>・ミニワークショップでは、コミュニティ活動のツールとしてのスプラウトづくりを指導し、これを生かした園芸福祉活動の事例発表があった。</p>			<p>各講師の発表に対して、参加者(成人85名、高校生6名)からは、大変良かったと賞賛されていた。末光氏社会福祉法人旭川荘理事長による、旭川荘60年の設立の理念とその後の時代に即応した福祉の変遷のあり方を分かりやすく解説していただくとともに、旭川荘が、設立当初から武者小路実篤の「新しき村」を意識した立体農業に取り組んだことは、福祉と園芸のつながりを当初から検討していたことが分かり、参加者の満足度は大きなものがあった。最後に、園芸活動で人と人がつながり、皆(グループ、地域、社会)で幸せになろうとする園芸福祉活動を常に新しい方法で取り組むことが重要であるとのりまとめがあった。</p>			
5	しがの里山や川を 美しくする会	滋賀県大津市	折田 泰宏	けやき法律事務所弁護士	ボランティア団体とスラップ訴訟	平成30年5月27日(日)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
<p>折田弁護士がかわった琵琶湖環境権訴訟を例に、市民団体による訴訟の大変さを話していただいた。この訴訟は住民側が敗訴したが、琵琶湖の環境悪化は住民側の主張が正しかったことを証明し、その後は首も民も環境保護の意識が変わっていった。環境破壊について監視するボランティア団体が逆に訴訟を起これるという点は、SNSに載るときには弁護士に見てもらうのが必要になっている。</p>			<p>参加者は少なかつたが、会の理事のメンバーと主要メンバーは今後の活動を続ける上で、勇気を頂いた。ホームページにその度折田弁護士に見てもらうことにした。今後も環境保護活動を続けて、未来の子供たちに琵琶湖の自然を残していきたいと思う。</p>			
6	福井県自治会連合会	福井県鯖江市	藤山 浩	(一社)持続可能な 地域社会総合研究所 所長	平成30年度福井県自治会連合会総会	平成30年5月24日(木)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
<p>「自立した自治組織活動に向けて～地元を創り直す時代」と題して、少子高齢化の進捗に加え、若者の都市部への流出が止まらない現状をふまえて、地方自治の基礎的な単位である町内会・自治会をどう考えたら、自立・持続できるか、福井県内の事例も交えての講演内容でした。</p>			<p>人口減少が避けられない中で、出生率微増、流出率微減、定住世帯微増により人口の1%を取り戻す、地域内での地産地消を進めて「所得の1%を取り戻す」など、大きな目標でなくとも地域の安定的な維持の可能性があると期待感が深まった。また、事例で紹介された高齢者の出番を増やす、女性の活躍を推進することなど地域の人的資源を活用することは、どこでもすぐにも取り組めることなので、今後の行動の方向性を改めて認識することができた。</p>			
7	東北地方太平洋沖地震・ 復興支援ネットワーク淡路島	兵庫県淡路市	鈴木 弘子	宮城県七ヶ浜町婦人会 会長	被災地として学んだ 地域づくりフォーラム&研修交流会	平成30年5月19日(土)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
<p>被災当時は婦人会の組織も多くの被災を受け、少し活動しにくい状況にありました。お正月餅を作り、仮設住宅に配るという事業を共に取り組みましたよとの申し入れに、350キロの餅米をつくという事で当初は実現に向けての不安や戸惑いもありましたが、婦人会のメンバーも協力的で本当によかったです。</p> <p>特に、経済支援ということで、もち米をはじめ餅つき機以外の一切の食材や舟などを地元の商店から購入して頂く配慮には感動しました。婦人会のメンバーも、ローテーションを組んで、個人の負担のかわらないように配慮しましたが、皆さん、積極的に参加していただき、仮設住宅が閉所するまで5年も続けることができました。</p> <p>婦人としても、被災を乗り越える協力体制にも寄与ができた取り組みでした。また、「癒しの花壇」づくりや物産展などの交流にも繋がり、これからは人的交流を続けていきましょう。</p>			<p>七ヶ浜町婦人会の鈴木弘子会長をお招きして、当時の対応とそれから学んだことを講演していただき、兵庫県南部地震の時の経験をさらに活かした活動に繋げ、今後の防災意識の高揚を図ることができ、さらに、七ヶ浜町婦人会の方々と交流を深めることができました。しかし、参加者が少なかつたのは残念でした。やはり、東北地震の件は風化の方向かと、少し気になりました。</p>			

平成30年度地域づくり活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
14	行丘レクリエーションクラブ	青森県青森市	松戸 良一	千葉県柏市レクリエーション協会 会長	レクリエーション支援者のための 明日すぐに使えるレクリエーション研修会	平成30年8月26日(日)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
対象に合った楽しいレクリエーションとは、初めて出会う人たちの集い、毎週出会うデイサービス、毎日出会う学校のクラスなど様々な対象者に対し、それぞれの対象者に合わせたアレンジが必要である。おもてなしの5配り(目配り、気配り、心配り、手配り、身(体)配り)をして「やさしく、安全に、ゆっくり、楽しく」行うこと。 参加者同士が気軽にあいさつができる雰囲気づくり、何か楽しいことが始まる期待感づくり、交流ゲームによる一体感や幸福感づくり、前向きに夢や希望を分かち合える良好な集団作りが最終目標となる。 レクリーダーは、対象者のリアクションから学ぶことが必要である。			今回の参加者の中では、施設でレクリエーション支援活動をしている人が半数であった。参加者から「時間に追われレクリエーションを深く考えないで事業を実施してきたが、今回の講演と実技を通して、これまでのレクについての考え方が変わった」との意見があった。男性参加者は、当初硬い表情であったが、講師の楽しい話や実技を体験して、仲間同士の交流が深まり、笑顔が広がるまでになった。 レククラブ会員も、新しいレクリエーション財を学び、これからのレクリエーション活動に生かす自信がいった。			
15	一般社団法人 気山沼青年会議所	宮城県気仙沼市	小林 さやか	札幌新陽高等学校 校長補佐	親守詩×ビジュアル講演会	平成30年6月24日(日)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
「家族の愛」と「人の成長」について講師の実体験をもとに講演いただきました。 不可能を可能にするポイントとして ①ワクワクする目標をもとう 人は感情の生き物だから自分が本心で決めた目標でないと頑張れない。逆に自分がワクワクする目標については努力が苦ではなくなる。 ②根拠のない自信をもとう 自分は出来るという自己肯定感をもつことの大切さ。講師曰く自分にはこの能力だけが高かった。 ③具体的な目標を立てよう 勉強を続けるコツ、基礎を固めることの大切さ。 ④目標や夢を公言しよう 事故成就予言 これを行うと目標に向かっての努力しかできなくなり夢を叶える確率がとても高くなる。人に言わないといつてもその目標を取り消してしまう。 ビッグリオン効果 期待をこめれば人は伸びる現象 ゴレム効果 ネガティブな言葉で成果が落ちる現象 ⑤憎しみをプラスの力に変えるべし 人の感情で最も強い「憎しみ」を力に変える。 ゴレム効果に負けずに打ち負かそうと努力する。 本気で努力して目標を叶えた人はこの「憎しみ」が必ず「感謝」に変わる。			上記事業内容についてとても分かりやすく親しみやすい口調でお話しいただき、来場した方々は大人も子供も必死でメモやスライドを写真撮影する姿が印象的でした。講演後実施したアンケートによると、約85%の方が何かに挑戦したい、もしくは挑戦する人を応援したい気持ちになったと回答しており子どもが夢や目標をもつことの大切さを知ること、子どもが社会で強く生きるために大人が関わり方を学ぶという事業目的は達成できました。 また、約83%の方が親子の絆の大切さを再確認できたと回答いただいており、親子や家族間の絆を深めることで親族間のトラブルをなくす一助になったと確信しています。			
16	大野コミュニティ	愛知県常滑市	濑澤 寿一	NPO法人樹木環境ネットワーク 協会 理事長	里山の暮らしから学ぶ持続可能な社会	平成30年7月8日(日)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
1部:指導 コミュニティ活動で他との関係構築をしていくに際しての対人対人について基本的な考えについて指導いただいた。地域ごとの考え方や人間性の違いはあり、子どもたちも同様である。全国各地のコミュニティや人々との事業・交流等をするに際し、相手を理解し、慌てず認め合いながらすすめていくことを常に忘れてはならない。 2部:講演 「皆がさかす幸せな地域って何なのか」について講演だけでなく参加者との質疑応答を通じて、地域住民の視点・個人の視点について理解を深めることができた。価値観の変化による「今までの生活の質」と「これからの生活の質」が変化している。生活の質(幸せ)の向上をさせるためには、生活はつくるものであり、コミュニティを再生させる動機付けとなった。 3部:指導 地域コミュニティとして、持続可能な組織として継承させていくための指導をいただいた。地域内の合意形成、次世代への環境教育、外部者(よそ者)との「寄り合い」などを通して地域全体が一つの目標に向かってすすむことが重要。 戦前の日本の森での暮らしは、冬は道具の手入れ、けがをしたら草を煎じてみる、自分で食べるものを取るなど、「生きる」ということを全部自分でやっていた。「生きる」ことは「働く」ことだと。親から子へそしてその子へ伝えていく。どのように森を作ってきたかを伝えることの大切さと、この地域で生きていくためには何が大切かを伝えていった。「稼ぐ」ことは自分の家族を食わせていくことであり、「仕事」とは祭りだと、祭りとは生きていくことを教えることができるものである。お金中心で動く現代社会では、「孤立社会」「無縁社会」「LAIN社会」となり、人と自然、世代を超えた関係性が薄れ、生きることへの意味も考えなくなってきた。今後は経済的豊かさだけを求めない未来の社会、幸福、生きがいを皆で考え実践をする。			村の暮らしにはありがたさ・温かさ・わずらわしさがある。不便だが温かい社会であるコミュニティは今後必要である。地域コミュニティの在り方は、大野コミュニティと重なるものがあり、現在起こる震災などに備えてコミュニティを作る必要があるとの提言に、改めて考えさせられた。30年続いた大野コミュニティであるが、今後も持続可能なものにするためにも、次世代の人たちへ、そして現代を生きている人たちに何が大事か、それはお互いに興味を持つことで、興味を持つことから共感が生まれる。そして人を許すこと、そこには愛があり、愛しみが生まれる。それが持続させるものだとことを次世代に伝えることを学んだ。アンケートの回答では多くの参加者からコメントいただいた。感謝をいただき、他人との関わり・繋がり的重要性に改めて気づかされたとのコメントが多く寄せられた。多くの参加者より、「講師が(プロジェクターで)使った資料で勉強したいのでいただけないか」との要望も多く、幸せ向上へ向け踏み出す一歩となった。			
17	NPO親子ふれあい広場	山梨県笛吹市	葉 祥明	絵本作家・詩人	地域づくり・人づくり事業	平成30年10月28日(日)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
・会場 いちのみや桃の里文化館多目的ホール ・午後5時30分開場 ・午後6時開演 人は形を変えずにいる。自然のままだと幸福になる。心の豊かさがあると経済も良くなる。ライフテーマには3つある。命、人生、ライフスタイル。命には病気、災害があり、死を重く受け止める。ライフ、いかに生きるべきか、それを言葉や絵で表現する。地域の素晴らしさ、山梨なら車窓からみる山の風景と両サイドに果樹園、エデンの園を思う。パラダイス。果樹園と子どもとの交流が絵になる。一度山梨を絵にして表現したい。			家庭教育、青少年教育を中心に活動を行う「NPO親子ふれあい広場」では、子供たちが大人に求めていること、また、大人は子供をどのように育てていくのか、具体的な事例としての講演は参加者に変参考になった。			
18	社会福祉法人 芳香会	茨城県古河市	藤縄 理	福井医療大学保健医療学部 リハビリテーション学科 教授	地域における安定した介護体制構築のための講演会	平成30年7月22日(日)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
藤縄教授は、リハビリテーション分野の研究者であるとともに、実践経験を有する理学療法士でもあるため「理学療法士が伝える腰痛予防最前線～腰痛予防に役立つ運動と基礎知識～」というテーマで、90分間の講演をしていただいた。90分の持ち時間のうち、前半45分間は資料を用いて腰痛発生のメカニズムなどに関する理学療法的な視点での説明をしていただき、後半45分間で実際に腰痛を発症している講演会参加者に対し、腰痛緩和のために自宅でも簡単に短時間でできる体操等に実技指導や、日常生活における留意点(姿勢や運動する時間の確保等)について助言をしていただいた。			講演会の当日、会場には在宅介護者、近隣介護施設等の介護職員のほか、近隣医療機関でリハビリテーションスタッフとして勤務する理学療法士、作業療法士にも参加していただいた。そのため、事前に藤縄教授に参加者の内訳を説明し、前半45分間の資料を用い、主にリハビリテーションスタッフに向けた専門的な内容で講演をしていただき、後半の45分間は在宅介護者や介護施設の介護スタッフ向けに比較的低レベルな内容での実技指導をしていただいた。 結果として、理学療法士の専門的知識の有無に関わらず、参加者に万遍なく理解していただくことができ、広く地域における安定した介護体制の構築に寄与することができた。			
19	大崎自然界部	宮城県大崎市	①猪股 克彦 ②今井 美代子 ③見上 一幸	①白神案内山の会 ガイドスタッフ ②白神案内山の会 ガイドスタッフ ③理学博士	ぼくら環境まもり隊	平成30年7月17日(水) 平成30年10月3日(水) 平成30年10月24日(水)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
教育機関へ1年間を通じ出向き、四季折々の香り・風など五感を体験する活動を行うことにより、本来の興味・関心・考える力を育てつつ、さらには生きもの達の観察～採取～飼育することにより、コミュニケーション能力・優しさ・問題解決、命の大切さを身に付けることができました。大型動物から顕微鏡で見る小さい生き物たちの生態まで学ぶことができました。			貴重な自然環境を守るためには、将来にわたって自然や環境を守り続けた先人たちからの知恵を守ることの重要性、そして生命つなぐ重要性。多くの学校で環境教育が実践されているものの、内容・方法等はさまざまです。目に見える環境問題だけに関心を持ってはくなく、さまざまな自然観や人間観を共有し、高める必要もあると思いました。そのためには、実践を踏まえた研修会を開催することが大切だと思います。			
20	日本野鳥の会長崎県支部	長崎県長崎市	樋口 広芳	東京大学 名誉教授	五島は渡り鳥の十字路ハチクマ講演会・ シンポジウム・探鳥会	平成30年9月23日(日) ～9月24日(月)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
五島市は渡り鳥の十字路と言われ、春と秋に渡り鳥が行き交う。秋には朝鮮半島からアカハラダカが南下、鹿兒島を通過し東南アジアへ、また東北や長野方面からハチクマと呼ばれるワシタカの仲間が五島を西進し中国へ。この野鳥の渡りを調べはじめ30年を迎えた。地域の観光資源としても活用もできる。町おこしや生態系や保存など地元の方にもっと知ってもらいたいと企画した。			地域に呼び掛けたところ100人が講演会に、120人が翌日の観察会に集まった。樋口東大名誉教授も含め分かり易い説明に、地元の素晴らしい話を教えられたようで、アンケートには様々なことが要望も含め肯定的に記載され所期の目的は達した。後日、新聞にも載った。			

平成30年度地域づくり活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
21	岡山建築設計クラブ	岡山県岡山市	塚本 由晴	大学教授/建築家	第25回 ワンデーエクササイズ	平成30年10月20日(土)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
建築デザインが相手にする自然や人間の「ふるまい」に根差した建築デザイン論を自身の作品を比喻しながら、自然や人間の「ふるまい」を社会生活の中で身に着けた人々の営みが建築となり、気候や風土、宗教など、地域に固有の条件の中で築き上げる文化がある、これらが、「建築のふるまい」につながる。時間の経過とともに建物が変化していくことも、「ふるまい」の一つ、建築デザインは決して感性だけの営みではなく、設計段階で関係する多くの人の共感を得るためにロジックは欠かせないと講演されました。東京工業大学大学院 教授 塚本由晴先生にはご講演を頂き、学生の皆さんは熱心に聞き入り心に響くメッセージとなったようです。				「ほぼできる場所」へきになるばしょ〜をテーマとし7校10チームの模型とプレゼンテーションを5分発表、10分質疑応答とした公開コンペとしてプレゼンでは発表しきれなかった内容を各テーブルで学生が話しやすいように水に向けていただきながらの追加説明を各チーム5分ずつ持たせていただきました。普段の課題の中で考え方はまた一つ違う形での建築設計への一面を感じることができた時間であったと思います。塚本先生からは、具体的に的確な講評を頂き、各作品に取組んだ成果に対して参考になり今後の取り組みや実際に社会に出た時の取り組みに生きてくると思います。最優秀賞・今回、協賛いただいた奉還町賀には、中国デザイン専門学校が買い入りました。		
22	特定非営利活動法人 シャローム	福島県福島市	保住 将文	彫刻家 チャパス州立芸術科学大学准教授	被災地のエーブル・アート 石彫りワークショップ	平成30年8月17日(金) ～8月19日(日)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
17・18日は障がいを持つ仲間たちが多く参加した。先生から今日までの経過と物語を話していただいた。20余の巨石が並び、物語の絵巻の未完成の部分の指導を受け、機械彫り加えて、仲間たちの細やかな手彫りが仕上げを加速した。先生から「人間の一生より長く残るだろう石の持つ魅力や不思議について、長い歴史の中で、この絵や形は何を表したものかという議論が生まれるかもしれない歴史的作品である」とのお話をいただいた。				10年間、市民の航空公園の「シンボルモニュメント」制作を続けてきた。東の空に向かう「蒼龍」は、今年を最終年とし「未完成の完成」の芸術作品を完成させた。福島産の鮫川石に彫り進めてきた物語は、2020年のオリンピック、パラリンピックの会場ともなる福島で、訪れる来客の自由な発想で子どもたちの遊具となり、大空をかける「スカイパーク」のシンボルとして、楽しみながら上手に使ってくださるだろうと感じるほど、集まった方々と完成を祝いながら、メキシコ料理と庶民の焼きそばで話が弾んだ。		
23	青森市レクリエーション協会	青森県青森市	飯田 弘	東京都レクリエーション コーディネーター会 会長	平成30年度フォローアップ研修会	平成30年9月2日(日)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
青森市レクリエーション協会会員及び青森県内のレクリエーション指導者の資質向上を目的として、レクリエーションの専門家より「ゲームの理論と実技」の指導を受けた。ゲーム理論で基本的な知識を学習した後、何道具を使わずに、ジャンケンゲームの実技を体験した。次々に展開されるゲーム、そして折に触れて、指導上のポイントについての説明は、目を見張るものがあった。参加した受講生は、終始、笑顔で楽しみながたくさんのことを学ぶことができた研修内容であった。				今後は、研修で学んだことを、学校生活の中、部活動の中、PTA活動の中、野外研修の中、子ども会・ボーイスカウト・ガールスカウト・地域の町内会等の「お花見会」「ピクニック」「クリスマス会」「お楽しみ会」等地域住民の交流の中で活用することによって、お互いの親睦を図り、青森市民・青森県民の活性化にもつなげていきたい。 また、学習したことをいろいろな場で普及促進し、日常生活をさらに元気に、楽しく、「健康寿命」を延ばし「ピンピンコロリ」の人生を送ることに努めていきたい。 そして、この研修を受講した仲間の皆さん方が、青森県の掲げる「短命県返上」に向けてますます頑張っていただけであることを願っている。		
24	特定非営利活動法人 空知文化工房	北海道滝川市	早坂 久美子	特定非営利活動法人 コバルト・クロス・カムインスタラ 代表	防災・災害時に女性の視点が必要な理由 ～宮城県女川町に学ぶ	平成30年10月31日(水)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
未曾有の震災によって避難所生活を送る中で、想像以上の様々な出来事により大人も子どもも我慢を強いられる状態が続く、本人の自覚のないままストレスがかさむ。また、食事内容や支援物資の受け取り方法や必要物資の情報提供、仕分けの等があり方など、工夫が必要で、避難所からやむを得ず自宅へ戻った住民にも援助が必要となる場合も多いため、継続的な支援が必要となる。				実際に現地へ入り現在も復興のための支援活動を継続している方の話を直接聞くことにより、防災への取り組みや災害時の考え方や行動を具体的に伺うことができた。町内会の方々の参加も多数あり、食事や避難所について、また避難所にはいないが被災している人々の生活を考えるきっかけづくりとなった。		
25	特定非営利活動法人 NPOとばりサイクルネットワーク	三重県鳥羽市	橋本 力男	日本農業経営大学校講師等	生ごみ堆肥による有機栽培講座	平成30年8月18日(土) 9月15日(土) 10月20日(土)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
平成30年8月18日(土)13:00～16:00 13:00 開講 有機栽培とは 14:00 生ごみのリサイクルと堆肥 15:00 堆肥の基礎、質疑応答 平成30年9月15日13:00～16:00 13:00 野菜の栽培(果菜) 14:00 野菜の栽培(根菜) 15:00 野菜の栽培(葉菜)、質疑応答 平成30年10月20日13:00～16:00 13:00～15:00 野菜の栽培(講義、実習) 15:00～16:00 まとめ、質疑応答				NPOとばりサイクルネットワークでは、生ごみ堆肥化(約500世帯加入)により家庭の生ごみをリサイクルしごみ減量を目指しています。生ごみ堆肥は、家庭での一次処理(約1～2ヶ月)、リサイクルパークでの二次処理(発酵、約4ヶ月)を経て、利用者に堆肥を還元しています。NPOでは、発酵技術者の育成を行っていましたが、有機農業の技術が充分でなく、今後の課題として有機栽培を促進し資源循環を実現したいと考えて取り組みました。テーマである生ごみ堆肥を使用した「有機栽培」について具体的に講義を受け参加者にとっては我流で栽培してきたことから学んだことにより大きく前進することになったと感謝されました。特に有機栽培の基本、堆肥の施用方法、種子の選び方、育苗、連作障害など多岐にわたる学びができました。さらに実習では講義では伝わらないことを丁寧に具体的に教えていただきました。今後は受講者を中心に有機栽培野菜の販売にも取り組みたいと考えています。		
26	芦屋Tioクラブ	兵庫県芦屋市	李 亜輝	二胡演奏家	音楽ボランティア養成講座 「二胡演奏 ワークショップ」14回連続講座	平成30年 8月2日(木) 8月16日(木) 9月6日(木) 9月20日(木) 10月4日(木) 10月18日(木) 11月15日(木) 12月6日(木) 12月20日(木) 平成31年 1月10日(木) 1月24日(木) 2月7日(木)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
1.二胡の基本演奏技法を学び、演奏技術のレベルアップを図り様々なジャンルの曲の合奏練習を行った。 2.興味を広げ、地域のつながりや生涯学習、仲間づくりのきっかけづくりの場として、二胡演奏を特技技能とする音楽ボランティア人材の養成を行った。 3.音楽イベントやボランティア演奏会などで地域と人の交流を図った。 4.地域のイベント等に音楽ボランティアで参加し、継続することで地域力として町の活性化や地域社会に貢献する。				1.講座受講料を安くして受講者の増員を図り、延べ155名の参加があった。 2.好評につき講座回数を14回に増やし演奏技術の向上を図った。 3.福祉施設でボランティア二胡演奏会や、地域の集会所でクリスマスコンサートなどを行い、地域と人の交流を深めた。 4.講座終了後に受講生でグループを結成した。「二胡合奏団ジャズミン」として地域でのボランティア活動を積極的に展開することを決めた。 5.芦屋ルナホールで開催された兵庫県政150周年記念事業「異文化交流コンサート 音楽でつなぐ日本・韓国・中国・モンゴル・ペルー」に二胡演奏で出演した。		
27	あきたESDネットワーク	秋田県秋田市	金澤 伸浩	秋田県立大学システム科学技術部 准教授	環境教育指導者養成講座(PLT・WET)	平成30年9月22日(土) ～9月23日(日)
	講 演 内 容			事 業 成 果		
PLT・WETについて講師より以下の説明を受けた。 ①この講習会の特徴は「先ずは、やってみよう！体験してみよう」という、参加体験型であり、アクティブラーニングに先駆けて考えられたもの。 ②参加者自らが体験することによって、分かる、理解する、実際の行動につなげようというもの。 ③内容:PLTもの形、本に触れよう、自然のリサイクル屋、もつと近づいて見てごらん、ペーパーミント、ビートルズ5曲のリサイクル等、WET驚異の旅、青い惑星、大海の一滴、傷ついたカゲロウたち、流域探検、限界ギリギリ等 指導実践は、小学生親子が対象であり、分かりやすく説明する、振り返りの重要性を確認し実施。子供たちは何を学んだのか理解できた。次は学びを行動につなげる工夫とのアドバイスあり。				①指導者になり、人に伝えたいという気持ちが、グループワークを通して分かった。 ②頭で分かることと体験して分かることの違いで、アクティブラーニングの重要性を認識できた。 ③指導実践では、役割分担、内容、事前準備、天候不順への対応、情報共有等事前に講師からの助言に従い、実行できた。初体験でも子供や大人に学んだことをしっかりと伝えることができていた。 指導者として、それぞれに順番に伝える体験し、終了後に自主的に、伝えるポイントの共有ができた。 ④子供たちが楽しく遊んで終わりではなく、学んだことを振り返りまでできていた。 ⑤今後はより多くの場数を踏むことが必要、今後も指導者養成だけでなく、活用の場や機会の提供をしていく。		

平成30年度地域づくり活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
28	ふるさと高原山を愛する集い実行委員会	栃木県矢板市	谷本 丈夫	宇都宮大学 名誉教授	イヌブナ自然林ハイキング	平成30年9月29日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>・ふるさと高原山を愛する集い実行委員会では国有林内に存在するイヌブナ自然林の国天然記念物や保護林指定に至った経緯等を理解していただくためのイヌブナ自然林ハイキングを実施した。 ・宇都宮大学谷本丈夫名誉教授は、国有林野事業に精通され、イヌブナ自然林の国天然記念物指定の第一人者である。 ・谷本先生からは、①林道周辺の植物の特性②ヒノキの管理不十分な人工林にて、人手で保育することの重要性③ブナとイヌブナの生育ステージの違い④国有林では保護制度により、天然の維持に有利であること⑤天然林もいずれは将来モミが優先するようになること⑥天然林での昆布類の下層植生はツツジ類が多く、概ね4m程度になっていること⑦砂防などにより地形が崩れにくくなると植生も単純化する、などの説明をいただいた。 ・塩那森林管理署の山口孝著長から塩谷町内の国有林の概況やイヌブナ自然林から釈迦ヶ岳までは保護林として、手を加えない管理となっていることなどの説明をいただいた。</p>					<p>・参加者から「イヌブナ自然林の国天然記念物指定からイヌブナを見ているが、今日の谷本先生の解説が一番理解できて満足です」という素晴らしいコメントをいただいた。 ・はじめに参加した実行委員からも、「谷本先生の説明を聞いて、イヌブナの貴重さを実感できて、良かった」というコメントをいただいた。 ・植物だけみるのではなく、森林全体を見て、物事を考察することを改めて学んだ。また、国有林についても様々な社会情勢を反映して、現在では保護林制度もあるなど、現地に向向くことで、保護林の価値を実感できた。 ・谷本先生の貴重な講義を参考にし、今後の当実行委員会の事業展開に活用していきたい。</p>	
29	神去村青年団	三重県津市	①深津 智男 ②花谷 秀文	①映画プロデューサー ②美術デザイナー	青春林業エンタメイベント映画「WOOD JOB!」を生かした『あな祭』で中山間地域を盛り上げる!	平成30年8月5日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>2014年に全国上映された林業青春エンタメイベント映画「WOOD JOB!〜神去村あな祭〜」のロケ地が、津市美杉町であったことを活かして、地域おこしイベントとして2015年から開催している『あな祭あなまつり』(2018.8.5)に合わせて、御神木「千年杉」の横で「WOOD JOB!」ロケ製作の苦労話、裏話などについて対談、講演していただいた。</p>					<p>御神木引きを午前と午後1回ずつ開催、お二人にも参加していただきながら説明してもらった。そして御神木引き後に、御神木の横で対談形式による講演をしていただいた。当日はあいにくの酷暑で会場に立っているだけでも汗が吹き出るほどの暑さにも関わらず、いずれも多くの参加があり合計50名と、封切り後3年経過しても、根強いファンが多いことを改めて実感した。映画のストーリーが林業のロマンス、奥深さを紹介する内容にもなっており、林業がテーマの映画自体が数少ないだけに、当地がロケ地になる機会は本当に稀なことなので、今後も、この希少なチャンスを逃さずに、地域おこし、林業振興に、この映画を活用して盛り上げていくという意識を、大会企画・運営者、スタッフで共有できた。</p>	
30	風と光の森づくり	三重県伊賀市	中嶋 健造	NPO法人自伐型林業推進協会 代表理事	自伐型林業講演会in伊賀	平成30年8月25日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>自伐型林業とは、事業者が伐採を委託する既存林業とは違い、山林保有者や地域住民が自ら山に入り、伐採、搬出、出荷を行う林業である。自伐は間伐を継続的に行うことで持続的に収入が得られる。また、伐期を100年から150年にするので世代を超えて森林経営を行い、質の高い木材が生産できるので、木材を高額で販売でき、生業としてやっていける。自伐は伐採した木材を搬出するために作業道を通す。災害に耐えるよう緻密に計算された作業道は予防山火・予防砂防になることも実証されている。以上のことから自伐型林業は、採算性がとれ、環境保全、災害防止にもなる持続可能な林業と言え、参入障壁も低いことから最近では若い世代の参入が増えている。伊賀市においても本講演会をきっかけに自伐型林業に取り組んでもらいたい。</p>					<p>地域の森を守っていくために、現行林業とは違い、選択型を参加者に知ってもらい、林業従事者一人一人でも増やす目的で本講演会を開催したところ、林業未経験者の参加もあり、特に30代を中心に若い世代が目立った。講演後の講師との意見交換の場では、「これから自伐をやりたい」という声や、「消費者としてできることはないか」という質問などがあり、多岐に渡る議論ができたように思う。また、地域の林業関係者の参加も多くあり、現行林業の問題点や自伐型林業について深く学んでもらえたように思う。さらには、参加者同士の交流もあり、山に関わってきたいという思いがあるものが、世代を超えて交流できたことも成果に挙げられるように思う。</p>	
31	学びあい「5色の絵の具」	石川県羽咋市	①丹間 康仁 ②北村 隆幸	①帝京大学教育学部 講師 ②NPO法人せきまちづくり NPO.ぶらめん代表	支えあう地域づくりを考える学習会 5年先・10年先に向けて「今」始めること 「自分の町の“今”を知ろう!」-未来を創る住民参加の調査に向けて-	平成30年8月24日(金)
	講演内容			事業成果		
<p>地域づくりを進めるためにアンケート調査がなぜ必要なのかを、異なる二つの視点(学問的な視点と実践現場の視点)から学ぶ学習会を3部構成で開催した。 ①第1部では、全てのプロセスに住民が関わる地域調査は、企画する側、調査される側が同じである。そのため、そこから得た気づきや発見から住民は様々なことを学ぶ。だからこそ次の課題が生まれ、地域社会を変えていくことができる。また、大人の学びは社会を作る学びであるなど学問的な視点から講義された。 ②第2部では、現場で実施したアンケート調査の内容やプロセス、調査結果から見えたことなど地域住民の反応等について具体的に説明された。調査は、住民の当事者意識を向上するとともに、地域をデータで客観的に視ることができ様々な地域課題について考える機会になる。そして、小さな取り組みから始めることであると講義された。 ③第3部では、講義(1,2)を受けて、質問したいことや意見・感想などについて、参加者同士、参加者と講師が意見を交換した。</p>					<p>参加者総数は51名(一般参加者44名+フタツブ7名)である。募集人員30名を大幅に超えており、関心の高さが伺えた。 一般参加者(44名)アンケート調査結果64%(大変良かった25%、良かった39%)の人が良かったと評価している。なお、参加者の83%の人が参考にしたいと回答し、その中の90%の人が参考にしたいことを記載している。具体例として、「アンケート調査にはそういう意味があること」「現在の状況を把握し、問題点を洗い出し、対策、行動を起こすこの方法が参考にしたい」「まちづくりの具体例を分かりやすく説明してくれた。自分の町の今を知るにはアンケートから始める事」などがあつた。なお、アンケート調査は自分の町で実施したらよいと思うと回答した人が42%だった。 この度の学習会は、地域住民が実施するアンケート調査の必要性・重要性の理解を求めたものであり、概ねその目的は達成したと考えている。 なお、当団体では学習会の最後にモデル地域を募集しており、一步を踏み出す組織・団体があることを期待している。</p>	
32	木曾子育てまちづくりの会	長野県木曾町	藤田 潮	アンガーマネジメントコンサルタント	子育てがもっと楽しくなる アンガーマネジメントからのヒント	平成30年9月2日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>アンガーマネジメントでは「怒らないことではなく、怒る必要のあることは上手に怒り、怒る必要のないことは怒らないようになることを目指し、講座では怒りが生まれるメカニズムと3つの暗号を学びました。1つ目は衝動的な怒り、衝動的な怒りが収まる6秒をやり過ごすための行動や言葉を学びました。2つ目は衝動的な怒りを抑え、3つ目は思考のコントロール。①許せるゾーン②まあ許せるゾーン③許せないゾーンの決められました。②の領域を広げ、キープし、③境界線を伝えることを学びました。3つ目は行動のコントロールで、コントロール可能か不可能か、それが重要か重要でないか4つの枠組みでそれぞれの行動指針を学びました。また上手な叱り方と叱るときNGワードの紹介もありました。</p>					<p>参加者アンケートでは全て「とても役に立った」「役に立った」との評価をいただきました。「家庭や職場ですぐに実践したい」「自分の感情の向き合い方が分かった」「子どもや他人が怒っているときにどう考え対処したらいいかまで分かった」との声も多く、より良好な人間関係を築くための大きな力になったと思われまふ。講師から「怒りは伝染し、連鎖するが、ひとりで断ち切れる人が増えれば社会はもっと明るくなる」という話もありました。参加者が家庭で職場でアンガーマネジメントを広めることで、木曾地域が明るく活性化していくことも期待されます。また、運営面では、開田子育てサークルとは準備段階から連携し、お母さん同士の交流ができました。「おんたけ健康ラボ」や地元パン屋などにもご協力いただき、開田高原の魅力をPRできたと思います。</p>	
33	タラチネの会	宮城県栗原市	①岩淵 幸治 ②小岩 秀太郎	①陶芸家 ②縦糸横糸合同会社 代表	体感地域講座 ①ものづくりと地域づくり ②東北の伝統芸能に触れる	平成30年8月26日(日) 平成30年9月1日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>①くらは万葉祭からの流れ、土との関わり、陶芸への道のりなどについて紹介。陶芸のメカカにおける陶芸家としての在り方、他地域での活動などに触れた。また行政指導のまちづくりの課題や疑問、矛盾などを鋭く指摘。地域社会と人それぞれがどうかわっていくかを論じた。質疑応答を充実。また並行して作業中だった土のオブジェの見学と解説、祭りの社会的役割について語った。②雄勝町の伝統伝承芸能である阿波舞獅子舞を題材に取り上げ、はじまったとされる600年前から現在に至るまでの歴史をひもとき、その地域における文化的役割について語った。また、実際にお阿波舞獅子舞の実演を取り入れながら、音や動きそれぞれの意味を解説。地域の歴史と文化が集約された形として残っていたことに触れた。</p>					<p>両日共に前週からの台風や雨の影響で来場者は伸び悩んだ。第1回は参加者が少なかったため、コーディネーターの森氏が積極的に参加者とのやり取りをする時間を取ったことで、質疑応答だけでは得られない、突っ込んだ内容にも触れられることができ、参加者の興味と理解が深まる時間となった。また、地域において、ものづくりだけではなく、参加者それぞれの立場の役割を理解し、思考するきっかけとして有意義な機会となった。第2回では実演として丁寧に解説したことで体感しながらその意味を理解することができ、地元の伝統文化への親しみをより感じつつ、さらなる探求心を煽ることで次へと繋がる結果となった。全体を通し、地域との接点を持つ重要性と意義を考えさせられる場を提供できたことは大きな成果と言える。</p>	
34	特定非営利活動法人ぐるくるネット	北海道室蘭市	光岡 眞里	株式会社サムライト 社長	ICT×認知症予防	平成30年9月4日(火)
	講演内容			事業成果		
<p>①利用者16名を対象として光岡脳若トレーニングのデモと講演を行った。デモの内容は、アプリの説明、BB体操、黒板アプリ、記憶アプリ、写真めぐりアプリ等、アドバタイズとしては新しいことにチャレンジすることが脳の活性化に繋がるとのことであった。 ②参加者15名を対象として光岡脳若トレーニングのデモと講演を行った。講演内容は自己紹介、脳若とは、脳若の活用事例、元気な高齢者の担い手づくり、活用事例では脳若トレーニングから脳若サポーター育成の展開をし、コミュニケーションが活発になり、街が活性化したいという事例を紹介した。</p>					<p>①利用者からは大変好評であり、デモは面白かった、またやってみようなどの声を聞くことができた。指1本でいろいろなことが経験できる楽しさを知ることができた。 ②脳若を取り入れることにより単に認知症対策ではなく、元気な高齢者(アクティブシニア)をつくり、街を活性化できることを教わった。</p>	

平成30年度地域づくり活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
35	飯岡まちおこし実行委員会	千葉県旭市	①宮崎 文隆 ②吉吉 海平	①青少年育成成田県議会 指導員 ②広島NPO法人 理事長	①講演・座談会・シンポジウム ②海と大地の音楽会	平成30年9月8日(土) ～9月9日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>①講演・座談会・シンポジウム 「高齢者を元気にして、地域を輝かす」をテーマとして講演実施。講師の宮崎さんは「海・陸コンビ」として2名で全国47都道府県タスキレリーにより「高齢者を元気にして、地域を輝かす」旅をしている最中で全国8地方を選定して講演・座談会・シンポジウムを開催している。そこで以前から縁のある当地に来て今回の集いとなり、以下3名の講師の方に講演をしていただきました。 ・宮崎文隆:「高齢者を元気にして、地域を輝かす」活動の中でつかんだ人生を輝かす逆手流の輝耀劑(8つの合言葉)を解説 ・野老真理子:大里総合管理棟の夏休み中の学童保育について ・磯野満徳:音楽イベント開催による人的、物的交流について 講演後、飯岡中学生代表者に講演受講による「夢と希望」を題材にした内容での文言を「輝きのタスキ」に書いていただいた。 ②海と大地の音楽会(被災地旭市民及び銚子市民とゲスト) ・渡辺音楽教室アンサンブル小中学生によるマリンバ、管弦楽奏 ・銚子浜っ娘連による各種のソーラン踊り ・ナ・プ・ア・ヒ・ア・ヒ・アによるフラダンス ・スマ・アヤコによるスペシャルライブ</p>					<p>①講演・座談会・シンポジウム 「チャレンジは人生を輝かす」の持つ意味合いを講師の宮崎さんが持ち前の話術と掲示資料で事細かく説明して、同席した中学生等にも十分に理解されたものと思いました。また、シンポジウムでは、大原幽学仕法伝承会の首谷さんが「大原幽学」の元祖株組合の創設、農業技術の指導等について説明され、旭市の偉人についても同席者の共感を得られたものと思いました。最後に飯岡中学生代表者が「輝きにのタスキ」に書かれた夢と希望の文言が披露され、同席者全員で唱和して終了しました。 ②海と大地の音楽会(市民とゲスト) 当日は、旭市一般者と被災者及び旭市教育委員会 諸持教育長様のご来場をいただき、約120名の来場数となりました。管弦楽奏はじめ、ソーラン 踊り、フラダンス、プロ歌手によるライブ等で講演者への御礼と復興祈願を兼ねた市民イベントが大盛況でした。</p>	
36	NPO法人元氣お届け隊	長野県千曲市	清水 慎一	大正大学地域構想研究所 教授	【長野県～100年後の未来へと繋ぐ】プロジェクト 『大岡地区のあるべき姿と歩む道を考える』	平成30年9月13日(木)
	講演内容			事業成果		
<p>大岡(OOOKA)という地域を残すには経済が回らなくてはならない。地域が稼げる仕組みを作る。「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくり。観光の効果とは、よそからお客様にきていただければ、たのしくなる！元気になる！お金が落ちる！村が賑やかになる！働け(雇用)ができる！よそからお客様と住民が交流し合えば、お互いに元気になる！お年寄りがひきこもらなくなる！子どもがうれしくなる。よそからお客様にきていただければ、住民の地域に対する誇りが醸成される。華々しいことをやる必要はなく、よいいなことをせず、地域のあるものを活かす(地産地消)。美しいわが村、集落を残すために住民自ら立ち上がり移住者を増やそう。徳島県三好市祖谷地区は地方創生モデル。</p>					<p>大岡地区の存在の良さを再認識し、今あるものを活かして地域の財産を掘りおこし、地域への愛着と誇りを取り戻す意識改革に繋がった。清水教授にレクチャーにより住民の地域課題への向き合い方に本気度が上がった。滞在型交流プログラムであるグリーンツーリズムの拡大発展を目指すこととなった。長野市地域活動支援課、大岡住民自治協議会、大岡グリーンツーリズム倶楽部との連携を深めた。講演後のワークショップでは活発な意見が交わされ、住民一丸となって地域の維持、再生に取り組み機運が生まれた。大岡地区以外からの参加者も得られ、関係人口、交流人口増が期待される。</p>	
37	阿木区長会	岐阜県中津川市	山内 いづみ	「農作業DE恋を突らせ隊」 実行委員会委員	未婚・晩婚・少子化対策の一助となる親の子に対する婚活支援について	平成30年9月12日(水)
	講演内容			事業成果		
<p>岐阜県が発行している「親のための婚活応援BOOK」をテキストに、①子ども世代の結婚観・心理状態②親のサポートの仕方③具体的な婚活支援事業の紹介を主なテーマにセミナーを開催。「結婚に対して消極的と言われた子の世代と、親世代の「結婚することが当たり前」という意識の相違を埋めるには親子の対話や親の意識改革が必要であること、親は「干渉しすぎず、子の唯一無二の味方として、気持ちに寄り添った婚活支援が必要である」とを説明。具体的な婚活支援として、県が開催した「きず・マリッジサポートセンター」が発行する各種ガイドブックやイベント情報を紹介。また、阿木区長会が他地区と合同で開催する婚活パーティー(平成30年10月7日開催)の紹介も行った。</p>					<p>講師自身が行う婚活事業(農作業DE恋を突らせ隊)を通じて経験した実話を織り交ぜながら、①②③のテーマを分かりやすく話され、具体的な説得力のある内容に、参加者はメモを取りながら熱心に傾聴していた。参加者からは「時代の変化に驚くとともに、親がその変化を受け入れる難しさを痛感した」「親世代も考え方をええ、若者の意思を尊重する事の必要性・大切さを痛感した」との感想が寄せられた。</p>	
38	津山にほんごの会	岡山県津山市	岩田 和美	島根県JICAデスク国際協力推進員	日本語ボランティア養成講座 入門編 ～外国の方に日本語を教えてくださいませんか？～	平成31年2月3日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>6つにグループ分けし、アイスブレイクのため、言葉は一切使わず、ジェスチャーのみで指示をクリアしていくという、カードを用いた異文化疑似体験ゲームからスタート。本講座の内容は、前半「外国語としての日本語」について、様々な音源を用いて日本語のしくみ、文法、音、文字の説明。後半「実際の教える方」について、教材のみでなく、クイズを取り入れる、スーパードラゴンから学ぶことなど、コミュニケーション力や実生活に密着した教授方法もあることの紹介。地域日本語教室の目的は、「ことば」を学ぶのではなく、「ことば」で何か学ぶところであること。学習者は、語学力の向上だけでなく、「あそこに行ったら誰かに会える、会いたい」といった安心感、気分転換を求めている。そんな在在外国人の方たちの心を豊かにするパートナーになっていただきたい、と締めくくられた。</p>					<p>最初の異文化疑似体験ゲームで、異文化とは外国の文化だけを指すのではなく、日本人同士でも隣家の生活は異文化であることを知ることで、受講者の意識が変化したように感じた。受講者募集広報～講座終了までの全体を通して、ボランティアそのものに興味を持っている人材の掘り起こしになったとともに、従来、日本語を教えることに意欲はあるものの、その手法、技量に自信が無く、ボランティア講師登録へ踏み切れなかった方たちの背中を押してくれる良い機会となった。特に、「外国語としての日本語」を知ってもらう素晴らしい内容だった。複雑さを実感したが、実践できなくても「知識」として持っていることがとても重要であるなど、「日本語を教えるとは？」の基礎・概要、「地域日本語教室の目的」を知ってもらった素晴らしい内容だった。講座修了後は、日本語教室見学を希望する方もおられ、課題であった「生活者としての外国人を育てる」講師数の不足解決に向けて、一歩一歩、前へ進んでいる手応えを感じるものとなった。</p>	
39	(公社) 奈良まちづくりセンター	奈良県奈良市	①布野 修司 ②ナウイト ・オンザワンチャイ	①日本大学生産工学部 建築工学科教授 ②チェンマイ大学建築学部助教授	アジア文化遺産講演会&奈良・タイ国際交流フォーラム・座談会	平成31年2月2日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>布野氏の講演は、「アジア文化遺産の継承」を主題に、師が所属する文化遺産コンソーシアム・分科会長の経験から、文化遺産国際協力における日本の貢献についての報告があり、東南アジアの住居の研究結果として、バナキヤル建築の流れや、東南アジアの伝統的住居を中心に説明いただいた。ナウイト氏の講演は、タイの都市住居としてのショップハウスの研究成果を講演された。バンコクの水上生活の住居から陸上への変遷する過程や、西洋の文化を積極的に導入した過程、1859年の都市開発の研究から、ショップハウスの建設が始まった経緯、タイ各県の事例報告があった。フォーラムでは、ナウイト氏による、ナーン県の「ヘリテージ・コミュニティ」創設や、各パネラーが各自団体での文化遺産の具体的な活用事業について報告があった。</p>					<p>布野氏の講演により、世界の文化遺産の継承とその支援をする日本の取組方の概要や、東南アジアの伝統的住居の起源、伝播が地図による説明で理解できた。ナウイト氏の講演により、タイにおけるショップハウスはその起源から、タイ様式、西洋式、中国式の3タイプに分類されることが把握できた。両氏の講演により、アジア文化遺産の継承、特にタイの文化遺産の継承について学ぶ機会を得たと共に、文化遺産の保存の重要性だけでなく、活用による創造の重要性を学んだ。また、日本(奈良)とタイの対比において、文化遺産の継承についての意識向上につながった。フォーラムでは、パネラーや参加者による文化遺産活用への機運向上の成果を感じる事が出来た。</p>	
40	豊中駅前 まちづくり推進協議会	大阪府豊中市	芦田 英機	園田学園女子大学非常勤講師	豊中駅前まち歩きツアー「『豊中検定』を作り・歩く」	平成30年10月27日(土) ～10月28日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>●講座 10月27日(土) 13:00～17:00 写真や資料のPPT500枚を使用し、豊中市及び豊中駅前の生い立ちや施設の歴史などを説明。昔と今を比較させ時代の移り変わりやまちづくりの変遷などを説明。豊中検定を作成した。 ●まち歩き・意見交換会 10月28日(日) 13:00～17:00 会場の大池コミュニティプラザを出发、改良工事について大阪府と協議中のスクランブル交差点、本町南交差点(駅への新道づくりについて)、豊中駅前人広場、メモリアルパーク、稲荷神社、金禅寺、豊中高校資料室(説明)、豊中カトリック教会(説明)、法雲寺(講話)、光源寺、看景寺(講話)とまちを巡り会場へ到着。まちを歩く中、その都度、施設の紹介とその変遷、道路網の課題を説明する。 今回は、作成した豊中検定のおかげでまちの魅力を再発見できた。まちの課題がよく理解できたとの声が多く聞かれた。</p>					<p>新住民や学生の中では改めてまちを見つめる機会に恵まれ、住む街を見直し他との感想があり、学生たちがまちづくりの運動に関わるきっかけができた。普段は聞けないお寺や神社での講話や豊中高校資料室の見学と説明により、従来の住民には改めて地域資源の理解が進み、まちへの愛着が深まった。新住民には、まちの成り立ちと変遷、まち並み、まちづくりの動きと盛り沢山のまちの情報が得られた。</p>	

平成30年度地域づくり活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
41	特定非営利活動法人福祉ワークスほーぷ	大阪府堺市	河合 将生	NPO組織基盤強化コンサルタント	超高齢化時代を迎えた街で地域福祉の一端を担う当会の事業を整理し、今後の方向性を決め、継続性のある組織運営の基盤を作る	平成30年9月20日(木) 10月6日(土) 11月9日(金) 平成31年1月12日(土)
	講演内容 【コンサルティング実施内容】 1回目～2018年9月20日(水)9時半～12時半/参加5名/①管理費と事業費のバランスについて ②NPO法人の事務局の仕事内容③事業と人事のバランスについて④今後取り組みたい事業について 2回目～2018年10月6日(土)9時半～12時半/参加5名/①課題の整理②法人の目指すもの確認 ③行動計画 3回目～2018年11月9日(金)9時半～12時半/参加8名/①事業部ごとの収支について②資金集めについて③会報について 4回目～2019年1月12日(土)13時半～16時半/参加5名/①組織診断②今後の取り組みのポイント 【アドバイス内容】 法人事務局の役割を明確にし「見える化」すること、各事業部の運営には管理的な部分が存在することを認識し、事業部同士の横のつながりができるような取り組みをする。事業と人事のバランスについては適当であり、新規事業の開発に着手できる体制を作れること。設立から20年経過しており、法人の目指すものの一歩の確立が必要。ミッションを明確にして、それに基づいた行動計画を立て、メンバー一人ひとりに浸透させていくこと。又、担い手の意欲、モチベーション向上に繋がる取り組み、メンタル面のサポートも重要。今後3年間に注力するものを明確にすること。				事業成果 アドバイスに基づき、下記の内容を実施もしくは実施予定にしている。当会理事、幹部職員がコンサルティングを得ながら組織の現状について理解し、今後行うべきことを確認、共有することができた。3月上旬に中長期計画案を作成、今後地域の中で会が担っていくことを明確にし、内外に表明する予定。 【アドバイスに基づき実施もしくは実施予定の内容】 ①法人事務局の仕事の見える化 a日報の作成・共有 ②法人の目指すもの確認 aミッションを確認共有する会を開催 b行動指針案を作成 ③資金集めの取り組み a目的、金額を明確にした寄附募集を実施 b会員、支援者向けの会報をわかりやすく整理 cクラウドファンディングページの作成 d助成金申請の勉強会を開催 e資金の積み立て(修繕積立・新規事業開発積立) ④組織の課題整理 a強み弱みの分析 b課題整理 c中長期計画作成 ⑤人材育成 aメンバー全員に対して面談を行う 面談時に外部のサポートを得る bメンバーの希望と会の方針に沿った行動計画を作成	
42	吉岡宿にしばりかの映画祭 実行委員会	宮城県大和町	①今村 彩子 ②小野 さやか ③穴戸 大裕 ④佐賀 柊咲 ⑤櫻井 育子	①Studio AYA代表 ②映画監督・テレビディレクター ③映像制作者 ④SAKU ⑤生涯発達支援塾TANE主宰	吉岡宿にしばりかの映画祭2018	平成30年10月6日(土) ～10月7日(日)
	講演内容 地域の差別解消の基本は「人には違いがあるんだ」という事を「知っていくこと」と考え、いろいろな生き方があるということを分かりやすく伝える手段として「映画」をとらえ今年も開催した本映画祭。1日目は冤罪事件の知られざる本人たちの明るい「生き方」を描く「獄友」と重度知的障害者の見えない「道草」(未公開)を上映し、唯一監督が不参加とされていた「獄友」も監督自ら駆けつけてくれることになり、映画では得られない「情報」を得、考える機会を持てました。2日目も、自分の性の違いについて相談できずに苦しむ若者、特に情報が少ない豊者のLGBTへのメッセージ「11歳の君へ」、様々な性のあり方を追った「恋とボールパーク」を上映。それぞれの上映後に、映画を深める監督らのトークを、手話通訳を付けて(両日とも)行いました。				事業成果 結果として全上映作品の監督が揃ったという大変濃い映画祭の講師陣となりました。急遽行った「獄友」のトークも含め、すべて上映後にトークの時間を設けることが出来、作品上映自体が減少しない機会ということで両日ともに当事者・関係者も集まり、深い現実を踏まえた語り合いが行われました。参加者数は期待には及びませんでしたが、内容は予想をはるかに超えた充実したものになり会場には、ずっと溢れる熱気。主催した側も関係者たちも、そして参加して下さった方々も、講演後も抱き合った情報交換し合ったり、得難い時間を過ごすことが出来ました。まず日頃から交流の機会が少ない本人たちが出会う貴重な時間となり、そして自分以外の違いにも触れることができる新しい機会となり、それが自分たちの次への希望につながりました。もちろん全く何も知らなかったという来場者には大きなカルチャーショックとなったと思います。	
43	高取焼を伝える会	福岡県直方市	①高取 八山 ②亀井 味楽	①高取焼宗家 ②高取焼味楽窯	高取焼のルーツを訪ねる	平成30年10月21日(日)
	講演内容 高取焼の祖である高取八山のルーツはどこか定かでないが、清正が連行した井戸新九郎が、八山の妻の父であることから、長政の連行経路と清正の経路の重なった地域であろうと推察されること、八山さんと味楽さんの、高取焼のルーツを訪ねる旅で、韓国に渡った地が、直方の内ヶ磯との類似に感動したこと、ただ、陶片などがなく、特定するよりも今後の研究にゆだねた方がよいとの結論に至ったことなどが話の中心だった。 また、高取焼は直方の宅間町窯を開いたのち、各地を転々としたのは、土か、燃料か、流通か、さきがないこと、朝鮮と日本の器づくりの手法、釉薬の違いなど、特に、13代八山さんの祖母静山さんが、初代八山が楮国の願ひがかなわず、異国の地で亡くなった無念の想いを継ぐため、韓国の若い陶工2人を招き、一人前にして、韓国の地に窯を開かせた話など、多くのことを学んだ。				事業成果 当初予定していた100名には届かなかったが、当日は60名を超える参加があり、特に味楽窯保存会のメンバー10数人が博多から参加してくれたほか、数人の窯元の参加もあり、皆熱心に聞き入っていた。 秀吉の朝鮮出兵の折、西国の武将たちは競って李朝の陶工を連行し、萩、上野、高取、唐津、薩摩など、各地で窯を開かせ、現代でも日本の陶磁器の焼物文化を支えていること、そこには、異国の地に骨を埋めた多くの陶工たちの無念の思いがあったことを知らされた。10年を区切り開いた今回のイベントで、これからの10年何を発信するか、発信の核を作る必要を感じた。 博多の町中の味楽窯では、薪で窯を焚くことができると話を聞きながら、高取焼の陶工たちが、年に一度くらい、高取焼発祥の地で、登り窯で窯たきができる環境づくり、更に、膨大な高取焼窯跡出土品を中心とした、高取焼資料館の建設促進を図るなど、直方のまちづくりに、寄与する必要性を感じた。	
44	原村ねこの手サービス運営委員会	長野県原村	河崎 民子	NPO法人全国移動サービスネットワーク 副理事長	住民向け講演会「車がなくても「移動できる」送迎の仕組みを知る」	平成30年10月12日(金)
	講演内容 生活に必要な移動・外出が困難な高齢者が増えている。免許を返納したら「閉じこもり」になったケースもあり、代替手段が必要。道路運送法では、バス・タクシー・トラックといった許可制の事業に加え、白ナンバーと普通免許でできる登録制の自家用有償旅客運送(2006年～)が存在し、原村社協でも実施している。原村では対象者や行き先が限られているが、行き先に関しては通学や食事・コンサート・観劇・教室やセミナー参加・墓参り・結婚式といった用途で使っている事例もある。本題として、許可・登録不要の移動サービスは運賃としてもらえないが、ガソリン代実費やカンパの4種がある。許可・登録不要の移動サービスは運賃としてもらえないが、ガソリン代実費やカンパはOK、仲介手数料もOK(ただし運転者に還元しない)となっている(国土交通省通達平成30年3月末)。原村では、4、総合事業で、常設サロン「おいでなし原宿」を通所型・Bにしたり、「ねこの手サービス」を訪問型サービスBやDにできるのではないかと。				事業成果 内容の濃い講演会で、理解度については難しかった人はいない一方で、しっかり資料を読み返したいという声があった。アンケートの回収率は68%と高く、関心の高さが伺えた。「行政はしっかりやるべき」といった声もある一方で、「自分達で何とかしないと!」という声や「制度を活用して送迎ができるとうわかって興味深い」といった声もあった。 感想には「勉強して行動を起こさないと!」や「私も協力したい!」どの地区にどのパターンが当てはまるか、人材、資金、地形、人の流れなどをきちんとサーチして構成していく必要がある」「長続きしている仕組みのところには住民の知恵がある」「行政に任せず、自分たちの姿勢を身につけることが大切」「送迎ボランティアにお願いすると気を遣うのでタクシー代の補助があれば…」など具体的などうあるべきか?という事を住民の方が考え出すきっかけとなった様子であった。 原村における送迎サービスについて考えに当たってはまるものを聞いたところ、1、今あるサービスで十分(10名)、2、家族や友人にアテがある(10名)、3、1～2年以内にバス停までの買い物バスを使いたい(7名)、4、1～2年以内に家から指定場所まで送迎してくれる仕組みが欲しい(16名)、5、いつか3や4の仕組みが欲しい(23名)、6、送迎ボランティアをしてもよい(4名)の結果となった。今後も送迎について考える機会を設けていきたい。	
45	(一社)むららん100年建造物保存活用会	北海道室蘭市	山岸 宏光	北海道総合地質学研究会理事	室蘭は火山だった! ~地質学がひもとく名勝ヒリカノカ「絵鞆半島外海岸」の美~	平成30年10月27日(土)
	講演内容 絵鞆半島は1千万年前に海底で噴火した火山から生まれ、ヒリカノカに選ばれた断崖絶壁などの景勝は水中火山由来であることを説明。水砕砕岩、給源岩脈、柱状節理や溶岩ドームなど、陸上から観察できるポイントもある。また、景勝地として有名な地球碑は水中火山の山頂であることなどを解説。また、海から見えるクジラ岩や桃岩などの詳しい説明があった。アイヌ語地名とともに地質学的価値が高く、ジオツアーなど観光にも活用できる可能性を説いた。 また今回は胆振総合振興局の旨に「ヒリカノカ・ジャーニー」について解説を頂き、日本遺産申請について官民協働で発信していく旨のお話があった。				事業成果 一般市民やボランティアガイドが多数参加し、室蘭の地質が貴重であることを広く学習できた。絵鞆半島の地質については、断崖絶壁のため陸上から近づけない箇所が有り、専門家にも知られていなかったが、NHK番組「プラタモ」で取り上げられたため全国的にも地球碑観光や外洋遊覧が人気となっており、地質的解説を取り入れ室蘭ならではの観光へ活用されることが望まれている。今回の講演内容は今後の観光案内の学術的裏付けとして活用を行い、ボランティアガイドや街歩き案内人が、番組撮影の裏話を含め専門家から直接解説を受けたことは、観光客へ室蘭の魅力を伝える際に大きな力となる。	
46	認定NPO法人ときわ会藍ちゃんの家	三重県伊勢市	栗林 知絵子	NPO法人理事長	子ども食堂の輪を広げる～ネットワークの構築に向けて～	平成31年2月17日(日)
	講演内容 ■講演内容について ・子ども食堂を始めるに至った経緯と団体の歩み ・子ども食堂が果たす役割 ・子ども食堂を利用する子どもたちと関わる地域住民 ■指導について 12:30からは子ども食堂ネットワークを実例に、ネットワークの構築においては一部の団体が先導していくのではなく、各団体が協力し合う関係の大切さを指導頂いた。また16:00からは、子ども食堂を始めるうえでのアドバイスを求め意見が多く、それらについて指導して頂いた。 具休例 ◇参加者からの質問 始めるに際し準備や申請しなければいけないことも多いが、どれほどのニーズがあるのか分からずこの足を踏んでいる。 ◇講師からの回答 いきなり継続していくことを目的とせず、まずイベントとして一度実施し、食事も簡単に調理できるものを提供し様子を見る。				事業成果 講演会においては、分かりやすい内容で子ども食堂に対する理解を深める機会になったと考えます。 16:00からのグループ討議には聴衆からも参加していただきました。参加者には、子ども食堂を始めたくてもそのきっかけを持っていない個人や団体がみられた中で、座談会を通して背中を押すことができ、また積極的な連絡先の交換が行われたこと、今後のネットワークづくりの足掛かりになったと考えます。 今回、講師の紹介にて三重県北部で活動する団体を紹介頂き、多大な協力を頂きました。子ども食堂の運営では先駆者にあたり、頼もしい協力先と繋がる事が出来たことは、今後の子ども食堂の発展に向けた弊法人の活動において、とても大きな意義があったと思います。	

平成30年度地域づくり活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
47	鉾田市まちづくり推進会議	茨城県鉾田市	鎌田 薫	早稲田大学前総長	第7回新春教育フォーラム	平成31年1月12日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>今年も鉾田市教育委員会の共催を得て、今回は、「教育再生と地方創生」をテーマに講演とシンポジウムを企画しました。</p> <p>第1部では、「この国のこれからの教育のかたちと地方創生の教育」の演題で鎌田氏から教育再生・地方創生を巡る最近の動向、いま、なぜ、教育再生か、など具体例やデータを挙げながらの話をお聴きしました。</p> <p>第2部では、講演者の鎌田氏のほか、川又輝美(元高等学校校長)、鬼沢保平(前市長)の3人のシンポジストとコーディネーターの野村正満(ほこた塾塾長)によりシンポジウムが行われました。それぞれの立場から、鉾田市の実情に合わせた具体的な内容が話し合われました。</p> <p>AIとロボットの技術変革がもたらす労働時間とさらに進行するであろう格差社会において教育をキーワードとして地方創生できるのか真剣に話し合われました。</p>						
48	特定非営利活動法人 みしまびと	静岡県三島市	①指出一正 ②成瀬友梨	①月刊「フクロ」編集長 ②藤成瀬・猪熊建築設計事務所代表取締役	みしま未来研究所switchスペシャルトーク ～地域の未来をつくる人のつくり方～	平成31年2月5日(火)
	講演内容			事業成果		
<p>多様な人が集い交流する場づくりには「余白」が必要となる。最初から完成させず、まともすぎず、使い手に委ねることで、当初想定していたイメージを超え、人と地域とともに成長する場となっていく。</p> <p>オープンな発想を生むには、対話、コミュニケーションが自然に生まれる場づくりが大切である。多様な人たちの創造的な出会いが生まれ、そこから偶然、生まれる驚きや楽しさを共有、共感しあうことで、新たな価値創造につながっていく。</p> <p>みしま未来研究所の運営主体のNPOみしまびとのビジョンは、「地域の未来をつくる人をつくる」であり、そのための合言葉、Welcome, Positive, Flatはまさに共創の場づくりに最も必要なことである。</p>						
49	長野県地域リーダー協議会	長野県千曲市	関司 直也	法政大学現代福祉学部教授	共感から生まれる地域コミュニティの力 ～集落点検事業の原点に立ち返る～	平成31年1月21日(月) ～1月22日(火)
	講演内容			事業成果		
<p>岡山県の農山村5集落のアンケート結果から、目に見えない空洞化(誇りの喪失)を問題提起された。「ここに住み続ける意味」「地域の未来のために自分にも何かできることはあるか」など「自分ごと」を「地域ごと」につなぎ直すこと、又「結果ではなく間(あいだ・プロセス)」が重要で、共感や小さな成功体験が「この地域は捨てたもんじゃな」というコミュニティ再生に繋がることが話された。コミュニティ再生は復興支援と似ており、「時代にふさわしい新しい価値を地域から内発的に創り出し、地域に上乗せしていく作業だ」とまとめられた。</p>						
50	NPO法人 アレルギーを考える母の会	神奈川県横浜市旭区	①矢上 晶子 ②古川 真弓	①藤田保健衛生大学 医学部皮膚科教授 ②都立小児総合医療センター アレルギー科小児科専門医	アナフィラキシー親子のための懇談会	平成31年2月16日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>重篤な食物アレルギーの親子対象に、東京、神奈川、愛知や大阪などから45人が参加。報道、製薬企業、研究機関からも患者の実情を知りたいと参加する姿も目立った。矢上先生は「思春期のアナフィラキシー対策」について、アルバイト先で鶏卵を含有した半固形状のドレッシングを素手で触っているうちに接触蕁麻疹からアナフィラキシー反応を起こすようになった事例、経皮感作が疑われたビールによる職業性の即時型アレルギーの症例等を通して生活上の注意などを紹介。古川先生は重篤な症状を起こした時の対応を中心に講演。終了後、懇談、質疑、個別の相談も行い充実した懇談会になった。</p>						
51	大村夢ファーム	長崎県大村市	吉田 憲	JICA中南米部長	中南米日系人ビジネス×地方創生～2019長崎から～	平成31年2月17日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>中南米への日本人移住に係る歴史などを通じて、現在の中南米においては、日本的な文化などが残っており、また非常に親日感情があるため、今後、経済的な交流はもちろんだが、これから先の日本の人口減少問題なども鑑み、中南米との交流人口を増やすことも1つの手段である等の講演を実施した。その後、全員参加型の意見交換を実施した。</p>						